

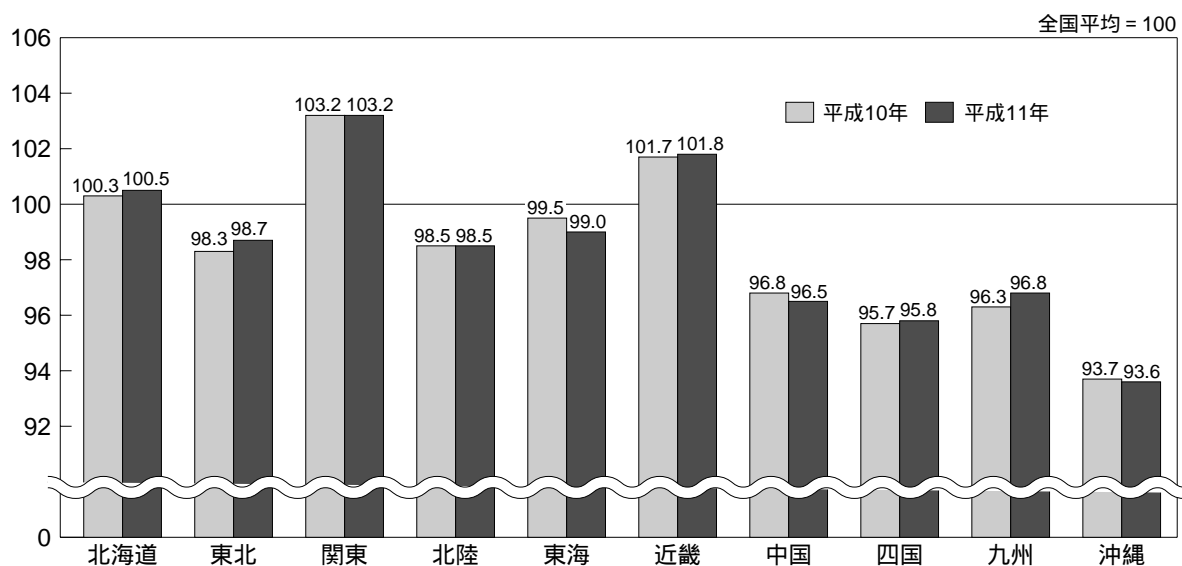
# 平成11年平均消費者物価地域差指数の概況

## 1 地方別の物価水準

平成11年平均消費者物価地域差指数（全国平均 = 100）を地方別にみると、総合指数（持家の帰属家賃を除く）は、関東が103.2と最も高く、次いで近畿が101.8、北海道が100.5で、これら3地方が全国平均を上回っている。

一方、最も低いのは、沖縄の93.6で、次いで四国が95.8、中国が96.5となっている。

地方別消費者物価地域差指数



## 2 都市階級別の物価水準

都市階級別にみると、大都市が105.2、中都市が99.5、小都市Aが97.7、小都市Bが96.5、町村が96.3となっており、人口規模が大きい階級ほど物価水準が高く、大都市の指数は町村に比べ9.2%高くなっている。

大都市：人口100万以上の市（仙台市及び千葉市を含む）

中都市：人口15万以上100万未満の市

小都市A：人口5万以上15万未満の市

小都市B：人口5万未満の市

町村：町及び村

## 3 都道府県庁所在市別の物価水準

都道府県庁所在市別にみると、前年に引き続き東京都区部が110.9と最も高く、次いで横浜市が107.9、大阪市が107.1、京都市が105.0、静岡市が104.7の順に続いている。

一方、最も低いのは、前年に引き続き宮崎市の96.3で、東京都区部との格差は15.2%となっており、次いで那覇市が96.4、松山市が96.8、前橋市が97.8、徳島市が98.0の順に続いている。

資料：総務庁統計局